

信濃川大河津資料館友の会だより

イベント報告

中ノロ川バスツアー

10月25日(水)に中ノロ川バスツアーを開催しました。信濃川と深い関わりのある中ノロ川を見学し、川の成り立ちや大河津分水との関係などを学習してきました。

◆コース◆

- ①燕の水倉②蒲原大堰中ノロ川水門管理所③昭和36年洪水で米俵を積んだ箇所④黒埼常民文化史料館⑤三川合流地点⑥信濃川ウォーターシャトル⑦新潟市歴史博物館みなとぴあ



蒲原大堰・中ノロ川水門管理所
ここからが中ノロ川の始まりです。信濃川下流河川事務所三条出張所の丸山さんより水門や堰の仕組みをご説明いただきました。



信濃川ウォーターシャトル
アナスタシア号に乗船し、陸上からは違った信濃川の姿を見ることができました。写真は船の中から見た朱鷺メッセです。



新潟市歴史博物館みなとぴあ
新潟の人々がいかに水と関わり共に生活をしてきたか、大河津分水と新潟の深い関わりについても知ることができました。

川の歌を歌う会・川の物語発表会

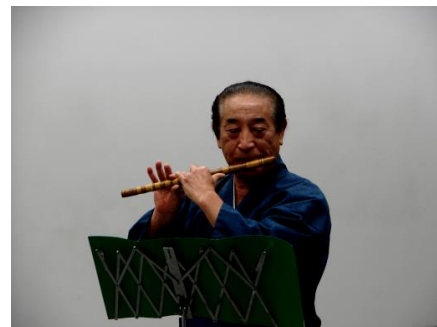
11月18日(土)に「川の歌を歌う会」「川の物語発表会」を開催しました。



会場の様子
多くの会員の方が参加されました。



捧一二さん
「五十嵐川の不思議と中ノロ川について」と題してお話されました。



片桐良五さん
荒城の月、月の沙漠、五木の子守唄を横笛で演奏されました。



中条吟詠会の皆さん
中之島で昔から吟じられている「大竹庭園」と「米百俵」を披露されました。



山田正義さん
友の会会員の山田司羅雄さんが作詞作曲された「大地の流～信濃川」を歌って下さいました。



五十嵐晃さん
「校歌に見る北陸の川」と題して、川と地域の関わりなどお話されました。

大河津下流域案内寄稿のご紹介

友の会会員 池田 富春

本年は新潟市の大合併記念として、新潟の船運、越後平野の開発と治水の歴史などの記念講演等多彩な催しが行われ、合併した市域が海・川などかつての船運を通じて繁栄があったことを改めて感じ知識の集大成ができた。また関連して佐渡の千石船の里廻船宿根木を訪ねる旅で今年を締めくくった。

さて、大河津から関屋分水までの下流域を案内いたし横浜の西山紀代子さんから、次の様な感動を俳句を交えて感想文をお寄せ頂きましたので一部抜粋し披露いたします。

西川水門〔合流の 水の寧らぎ 草紅葉〕

最初の川探訪にして当地風土紀への関心が一気に高まった。川の氾濫の歴史との戦いに、生命を賭けて生きた気の遠くなるような人々の暮らしと苦勞に打ちひしがれる思いであった。

樋曾隧道〔越路に秋 母なる川の 鬼子母神〕

鬼子母神はやがて慈母となり、子供の守り神となった。越後の歴史は潟の歴史、長いすさまじい戦いの中から勝ち取った豊穡の大地の中に川の意義も大きい。かくして信濃川は母なる川になった。

大河津分水路〔可動堰に 男の俠気 力芝〕

可動堰を眼前にした時の驚きは忘れ難い。旧堰のその巨大さにまず圧倒的迫力を感じる。言葉もなく佇んでいるうち、脈絡もなく突然「俠気」という言葉が浮かんで来て一句となる。

越後平野〔行秋や 越路はかつて 砂嘴ばかり〕

日本一大河の複雑な流れに翻弄され、氾濫を繰り返す土砂があちこちで砂嘴の張り出しとなり湿地の広がりとなる。その土砂との格闘のたくましさ、ねばり強さは今もその DNA の中にあり越後人の性格の根幹となっている。



現在の可動堰

池田さんのご指名は濱田達郎さんです。

今号の可動堰

新可動堰完成に向けて、可動堰周辺の定点写真を紹介します。

9月30日(土)に起工式が行われ、本格的に工事がスタートしました。

現在は大型機械も入り、工事が進められています。出水対策として鋼矢板による仮締切工が行なわれ、来年2月下旬に完了する予定です。



右岸堰軸から撮影
(平成18年12月5日撮影)



右岸堰軸から近景を撮影
(平成18年12月5日撮影)